

山・森林・木への熱い思い

第72回全国植樹祭ではこれまでの森林保全に携わり貢献された団体・個人が表彰されます。市内で受賞される方々をご紹介します。

緑化功労賞「湖国緑づくり賞」

びわ湖材利用部門〈個人〉

多くの人に木の良さを伝えたい

山田 喜一郎 さん

(甲賀林材株式会社・滋賀県木材協会甲賀支部)

木に宿る2つの命

「木材は法隆寺や東大寺に代表されるように、私たちは古くから木に対する特別な愛着を抱いてきました。そうした樹木には2つの命が宿っています。

一つは、大自然の中で空気を浄化させる役割を果たす自然環境として大切な「木」としての生命、もう一つは建築用材や家具として私たち人間と共に生きていく「材」としての生命です。

百年かけて育った「木」は人間が手を加えることで、さらに百年の命が吹き込まれます。私たちは昔から田や山に営み、自然に「和する」「共生する」という発想で木と接してきました。こうした日本独自の文化を大切にすると同時に木も人も同じ生き物であるとの視点に立ち、木が与えてくれる温もりのある暮らしを次世代へ伝えること、また木の良さを一人でも多くの方に知ってもらえるようにするのが私の役目だと思っています。」とお話をいただきました。



▲木製品の普及に向けたさまざまな活動



「健康、環境、癒しなどさまざまな恩恵を与えてくれるのが木のすばらしさです」と山田さん。昭和21年に創業、甲賀林材株式会社で6代目の代表取締役として、滋賀県産や国産材の生産出荷を主とする滋賀県南部で唯一の木材原木市場を経営されています。

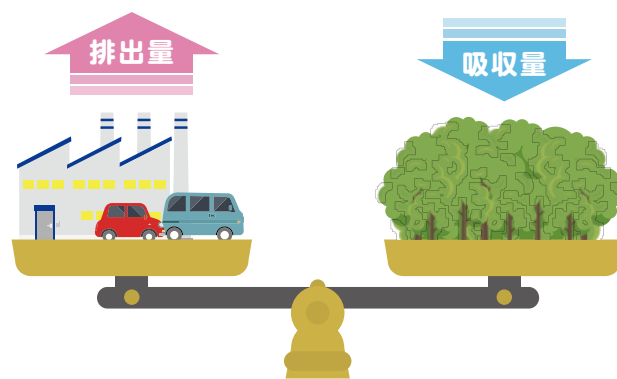
また、子育て応援フェスタ・木育キャラバン(令和元年開催)をはじめとした木育イベントに滋賀県木材協会甲賀支部として出店展示され、木製品の普及啓発活動に取り組まれています。

甲賀市『環境元年』スタート！

「甲賀の自然を未来へつなぐ」

国では2050年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする脱炭素への取り組みを進めています。イラストのように二酸化炭素(カーボン)などの温室効果ガスの排出量と森林や植林による吸収量などのバランスを現実ゼロにする状態のことです。

脱炭素のイメージ



▲温室効果ガスの排出量と吸収量がつり合っている状態

甲賀市では全国植樹祭を機に今年度を『環境元年』として本市の豊かな森林資源を活かし、次ページのようない取り組みを始めます。

第72回 全国植樹祭

木を植えよう びわ湖も緑のしずくから

令和4年6月5日(日)
いよいよ迫る!

～甲賀市「環境元年」スタート～

滋賀県では47年ぶりに「第72回全国植樹祭」が開催されます。

植樹祭を機に、山や森などとともに暮らしてきた歴史に触れるとともに、美しい甲賀の自然を次の世代へも引き継いでいけるよう、私たち一人ひとりにできることを考えてみましょう。

全国植樹祭の模様を テレビ放映します

～オール甲賀で盛り上げよう～

放送日時

- ①あいコムこうか 6月5日(日) 10:00～16:00
 - ②びわ湖放送 6月5日(日) 12:55～15:29
- ※NHKでも放送予定です。

お知らせ

式典会場は警備の関係上、あらかじめ登録された招待者と出演者・出店団体の方以外は会場に入ることができませんのでご了承ください。招待者以外の方はサテライト会場にお越しください。

全国植樹祭について詳しくはこちら(市ホームページ)▶



甲賀は山・川・森などの 自然とともに暮らしてきた地

甲賀は古くから森林資源に恵まれた地域で、特に仙川流域と大戸川流域は奈良や京都に隣接することから、古代から建築用の資材(用材)の供給地として「甲賀杉」が置かれていた由緒ある地です。

その用材は東大寺や石山寺の造営などに使用されるなど、木に関わる産業が発達し、大型の製材鋸である前挽鋸の生産が明治・大正期にはその一大産地として発展し、木挽と呼ばれる樹木の伐採・製材などに携わる多くの職人が、昭和30年頃まで市内の各地で活躍していました。

こうした前挽鋸の関連資料は平成27年に県内で初めて国の重要有形民俗文化財に指定、さらに平成29年には日本遺産の構成文化財へ、令和3年には林業遺産に認定されるなど、地域の人々により守り支えられてきた歴史ある甲賀市が誇る文化遺産です。

甲賀市が全国植樹祭の式典会場に選ばれたのは、こうした林業とともに発展してきた歴史ある地であることが国にも認められた結果です。

※前挽鋸について、詳しくは30ページに掲載しています。



▲当時使用されていた前挽鋸



▲当時の木挽職人の様子
※写真はどちらも甲南ふれあいの館